

特集・追悼 白井勝美先生

白井勝美先生略年譜・主要業績

略年譜

- 大正一三(一九二四)年 一月四日 栃木県に生まれる
- 昭和二三(一九四八)年 三月 京都大学文学部史学科卒業
- 同 五月 外務省調査員 調査局第一課
(同年七月より大臣官房文書課)
- 昭和二四(一九四九)年 六月 外務事務官 大臣官房文書課
(昭和三九年五月より国際資料部調査課)
- 昭和四〇(一九六五)年 二月 電気通信大学電気通信学部助教授
- 昭和四三(一九六八)年 一〇月 九州大学文学部助教授
- 昭和四五(一九七〇)年 四月 外務省『日本外交文書』編纂委員
(平成一六年三月まで)
- 昭和四六(一九七二)年 一二月 九州大学文学部教授
- 昭和五〇(一九七五)年 四月 筑波大学社会科学系教授
- 昭和五六(一九八一)年 四月 筑波大学社会科学系系長
(昭和五八年三月まで)
- 昭和六三(一九八八)年 三月 筑波大学退官、同学名誉教授

同 四月 桜美林大学国際学部教授

平成六(一九九四)年 四月 桜美林大学国際学研究所所長

平成七(一九九五)年 三月 桜美林大学退職
(平成七年三月まで)

令和三(二〇二二)年 九月二四日 逝去(享年九六歳)

主要業績一覧

【著書】

- 『日中戦争―和平か戦線拡大か』中央公論社(中公新書)、一九六七年
- 『日中外交史―北伐の時代』塙書房(塙新書)、一九七一年
- 『日本と中国―大正時代』原書房、一九七二年
- 『昭和史の瞬間(上下)』共著、朝日新聞社(朝日選書)、一九七四年
- 『満州事変―戦争と外交と』中央公論社(中公新書)、一九七四年
- ※二〇二〇年講談社学術文庫より再刊
- 『図説日本の歴史 一六 大正新帝国の登場』共著、集英社、一九七六年
- 『中国をめぐる近代日本の外交』筑摩書房、一九八三年

『張学良の昭和史最後の証言』共著、角川書店、一九九一年

※一九九五年角川文庫より再刊

※劉立善訳『日本昭和史の最后証人張学良』遼寧大学出版社、一九九

三年、陳鵬仁訳『張学良與日本』聯經出版事業、一九九四年として

中国語訳

『満洲国と国際連盟』吉川弘文館、一九九五年

『日中外交史研究―昭和前期』吉川弘文館、一九九八年

『日中外交年表草稿一九〇五―一九四五』クレス出版、一九九八年

『新版 日中戦争―和平か戦線拡大か』中央公論新社（中公新書）、二〇〇

〇年

【史料集・辞典】

『日本外交年表並主要文書（上下）』日本国際連合協会、一九五五年

※一九六五年原書房より再刊

『現代史資料 九 日中戦争（二）』共編、みすず書房、一九六四年

『近代史資料』共編、吉川弘文館、一九六五年

『現代史資料 一二 日中戦争（四）』共編、みすず書房、一九六五年

『現代史資料 一三 日中戦争（五）』みすず書房、一九六六年

『現代史資料 三八 太平洋戦争（四）』共編、みすず書房、一九七三年

『国史大辞典（全一五巻一七冊）編集委員、吉川弘文館、一九七九～九七年

『日本外交主要文書・年表（二）一九四一―一九六〇』共編、原書房、一九

八三年

『日本外交主要文書・年表（二）一九六一―一九七〇』共編、原書房、一九八四年

『日本外交主要文書・年表（三）一九七一―一九八〇』共編、原書房、一九八五年

『外務省執務報告 東亜局』解題、クレス出版、一九九三年

『日本近現代人名辞典』共編、吉川弘文館、二〇〇一年

【学術論文・分担執筆・講演記録】

『張作霖爆死の真相』（別冊知性 秘められた昭和史）、一九五六年

『五・三十事件と日本』（『アジア研究』第四卷第二号、一九五七年）

『幣原外交覚書』（『日本歴史』第二二六号、一九五八年）

『辛亥革命―日本の対応』（『国際政治』第六号、一九五八年）

『大正期中日関係』（『歴史教育』第七卷第二号、一九五九年）

『昭和初期の中日関係―北伐への干渉』（『読史会編』創立五十年記念 国史論集 第二巻）読史会、一九五九年

『中国の大戦参加と日本の立場』（『歴史教育』第八卷第二号、一九六〇年）

『一九一九年の日中関係』（『史林』第四三卷第三号、一九六〇年）

『田中外交についての覚書』（『国際政治』第一一号、一九六〇年）

『支那事変 前の中日交渉』（『国際政治』第一五号、一九六一年）

『条約改正と朝鮮問題』（『岩波講座 日本歴史 一七 近代 四』岩波書店、一九六二年）

『日中戦争の政治的展開（一九三七年～一九四一年）』（『日本国際政治学会太

平洋戦争原因研究部編『太平洋戦争への道 第四卷 日中戦争(下)』朝日新聞社、一九六三年 新装版、一九八七年)

※“The Politics of War, 1937-1941.” in James W. Morley (ed.), *The China Quagmire: Japan's Expansion on the Asian Continent, 1933-1941*. New York: Columbia University Press, 1983. 217-277 英訳

「欧州大戦と日本の対満政策―南満東蒙条約の成立前後」(『国際政治』第二三三号、一九六三年)

「横浜居留地の中国人」(『横浜市史』第三巻下、一九六三年)

「近代外国関係」(大久保利謙・海老沢有道編『日本史学入門』広文社、一九六五年)

「第一次・第二次世界大戦と日本」(中山治一・猪木正道編『世界歴史第七巻 現代の世界』人文書院、一九六五年)

「大正・昭和初期の外交」(日本歴史学会編『日本史の問題点』吉川弘文館、一九六五年)

「張勳復辟と日本側の接触」(『歴史教育』第一四巻第一号、一九六六年)

「南満東蒙条約の成立前後―二一箇条条約の一解釈」(栗原健編『対満蒙政策史の一面―日露戦後より大正期にいたる』原書房、一九六六年)

※「欧州大戦と日本の対満政策」の再掲
「幣原喜重郎」(林茂編『人物・日本の歴史一四 戦争の時代』読売新聞社、一九六六年)

「広田弘毅論」(『国際政治』第三三三号、一九六七年)

「辛亥革命―日本の対応」(アジア・アフリカ国際関係研究会編『朝鮮・中

国の民族運動と国際環境』、一九六七年)

「日本と中国―一〇〇年の歩みの中で」(貝塚茂樹・桑原武夫編『講座中国(五) 日本と中国』筑摩書房、一九六八年)

「ワシントン会議開催の前提に ついての覚書」(『史淵』第一〇二輯、一九七〇年)

「ヴェルサイユ―ワシントン体制と日本の支配層」(橋川文三・松本三之介編『近代日本思想史大系 四 近代日本政治思想史二』有斐閣、一九七〇年)

「外務省―人と機構」(細谷千博編『日米関係史 開戦に至る一〇年(一九三一―一四一年) 第一巻 政府首脳と外交機関』東京大学出版会、一九七一年 新装版、二〇〇〇年)

※“The Role of the Foreign Ministry.” in Dorothy Borg and Shumpei Okamoto (eds.), *Pearl Harbor as History: Japanese-American Relations 1931-1941*. New York: Columbia University Press, 1973. 217-277 英訳。

「ジュネーブの反応―一九一八直後」(『日本歴史』第二九三号、一九七二年)

「錦州占領―幣原外交の一考察」(『史淵』第一二二輯、一九七五年)

「中国革命と対中国政策」(『岩波講座 日本歴史 一九 近代六』岩波書店、一九七六年)

「外務省記録と『日本外交文書』」(『みすず』第二〇〇号、一九七六年)

「辛亥革命と日英関係」(『国際政治』第五八号、一九七七年)

「満州事変と幣原外交」(『筑波法政』第一号、一九七八年)

“On the Duration of the Pacific War: A New Look at the accepted View.” *Japan Quarterly*, Vol.28, No.4 (1981).

- 〔講演 満州事変と若槻内閣〕〔軍事史学〕第一八卷第二号、一九八二年）
- 〔日本の対英イメージと太平洋戦争〕（細谷千博編『日英関係史 一九一七～一九四九』東京大学出版会、一九八二年）
- ※“A Consideration of Anglo-Japanese Relations: Japanese Views of Britain, 1937-41,” in Ian H. Nish (ed.), *Anglo-Japanese Alienation, 1919-1952: Papers of the Anglo-Japanese Conference on the History of the Second World War*, Cambridge: Cambridge University Press, 1982. としつ英訳
- 〔太平洋戦争ノート〕〔筑波法政〕第六号、一九八三年）
- ※“On the Duration of the Pacific War”の日本語版
- 〔日中戦争と軍部〕（三宅正樹・秦郁彦・藤村道生・義井博編『昭和史の軍部と政治（2）大陸侵攻と戦時体制』第二法規出版、一九八三年）
- 〔中国における排日ボイコット—一九三二～三三年福州の場合〕（細谷千博編『太平洋・アジア圏の国際経済紛争史 一九二二～一九四五』東京大学出版会、一九八三年）
- 〔佐藤外交と日中関係—一九三七年三月～五月〕（入江昭・有賀貞編『戦間期の日本外交』東京大学出版会、一九八四年）
- 〔第一次世界大戦と協調体制〕（高村直助編『海外視点・日本の歴史 一四 富国強兵の光と影』ぎょうせい、一九八六年）
- 〔ワシントン体制と協調外交〕（日本歴史学会編『日本史研究の新視点』吉川弘文館、一九八六年）
- 〔満州事変—リットン調査団を中心に〕〔外交史料館報』創刊号、一九八八年）
- （年）
- 〔一九三七年日中関係瞥見〕〔筑波法政』第一号、一九八八年）
- “Japanese Approaches to China in the 1930s,” in Akira Iriye and Warren Cohen (eds.), *American, Chinese, and Japanese Perspectives on Wartime Asia, 1931-1949*, Wilmington: Scholarly Resources Inc, 1990.
- 〔済南事件交渉経緯〕〔外交史料館報』第三号、一九九〇年）
- 〔国際連盟脱退経緯〕（九州大学国史学研究室編『近世近代史論集』吉川弘文館、一九九〇年）
- 〔講演 満州事変—研究上の問題点〕〔九州史学』第一〇四号、一九九二年）
- 〔一九二〇年代〕（山根幸夫・藤井昇三・中村義・太田勝洪編『近代日中関係史研究入門』研文出版、一九九二年 同増補版、一九九六年）
- 〔日米開戦と中国〕（細谷千博・本間長世・入江昭・波多野澄雄編『太平洋戦争』東京大学出版会、一九九三年）
- 〔一九二九年中ソ紛争と日本の対応〕〔外交史料館報』第七号、一九九四年）
- 〔太平洋戦争—二・三の視点〕〔政治経済史学』第三四五号、一九九五年）
- 〔梅津・何協定』締結前後〕〔国史学』第一五九号、一九九六年）
- 〔満洲国による中国海関接收経緯〕〔外交史料館報』第九号、一九九六年）
- 〔日中戦争の起源—一九三三年〕〔軍事史学』第三三三卷第二・三合併号、一九九七年）
- 〔満州事変』の性格〕〔軍事史学』第三七卷第二・三合併号、二〇〇一年）
- 〔昭和期の日中関係（一九二八～一九四五）〕〔外交史料館報』第一五号、二〇〇一年）

「冀察政務委員会と日本」(『外交史料館報』第一六号、二〇〇二年)

「日中戦争初期の解決構想」(『政治経済史学』第四三八・四三九合併号、二〇〇三年)

「袁世凱の没落と日本」(『政治経済史学』第四五四号、二〇〇四年)

「第三一回駒沢大学大学院史学大会記念講演『支那事変』考」(『駒澤大学史学論集』第三四編、二〇〇四年)

【書評】

「緒方貞子著『満州に於ける反抗』」(『国際政治』第二八号、一九六五年)

「山辺健太郎著『日韓併合小史』」(『世界』一九六六年七月号)

「藤原彰著『体系・日本歴史六 日本帝国主義』」(『日本歴史』第二四七号、一九六八年)

「田尻愛義著『田尻愛義回想録』」(『軍事史学』第一三卷第四号、一九七八年)

「細谷千博著『日本外交の座標』」(『国際政治』第六六号、一九八〇年)

「藤村道生著『日本現代史』」(『日本歴史』第四一三号、一九八二年)

「近代日本研究会編『年報近代日本研究 日本外交の危機認識』」(『日本歴史』第四五九号、一九八六年)

「井上寿一著『危機のなかの協調外交』」(『国際政治』第一〇九号、一九九五年)

「秦郁彦著『盧溝橋事件の研究』」(『国際政治』第一一六号、一九九七年)

【史料紹介・その他小文等】

「外交文書公刊について」(『明治史料通信』第四号、一九五五年)

「史料解説 国際連盟脱退通告文」(『歴史教育』第四卷第二号、一九五六年)

「史料紹介 日本と辛亥革命―その一側面」(『歴史学研究』第二〇七号、一九五七年)

「史料紹介 段・汪政權に就ての若干の資料」(『歴史学研究』第二二〇号、一九五八年)

「昭和史の瞬間」(『朝日ジャーナル』一九六五年～一九六六年連載)

※連載中以下の各記事を執筆

「泥沼戦争への道標 濟南事件」(一九六五年一月三十一日号)「朝鮮人の

悲しみ 万宝山事件」(一九六五年三月一日号)「誰がための「王道楽土」 満州事変」(一九六五年四月四日号)「自壊する外交 国際連盟

脱退」(一九六五年五月一日号)「悲劇の序幕 盧溝橋事件」(一九六

五年七月一八日号)「幻影を追うもの 東亜新秩序」(一九六五年八月一五日号)「事実上の最後通告 日米交渉」(一九六五年一〇月三日号)

「空転する占領政策 大東亜会議」(一九六五年一〇月三十一日号)「消えた虚構の軍事国家 満州国の崩壊」(一九六六年一月二日号)「大日本帝国の終止符 ポツダム宣言受諾」(一九六六年一月二六日号)「文明の

名において 極東裁判」(一九六六年三月二〇日号)「同族あいつつ

悲劇 朝鮮戦争の勃発」(一九六六年四月二四日号)

「大日本帝国」時代の史料公刊について」(『明治百年史叢書刊行目録』、一九六六年)

- 「張作霖爆殺事件」 「張作霖・張学良」 「冀東密貿易と川越・張会談」 「天羽声明と華北分離工作」 「西安事件」 「朝鮮戦争」 (河原宏・藤井昇三編) 『日中関係史の基礎知識―現代中国を知るために』 有斐閣、一九七四年)
- 「戦後日本の国際政治学 歴史研究―総論」 (『国際政治』 第六一・六二合併号、一九七九年)
- 「日本近代(一九七九の歴史学会 回顧と展望)」 (『史学雑誌』 第八九卷第五号、一九八〇年)
- 「学内トビックス『中国をめぐる近代日本の外交』」 (『筑波フォーラム』 一九八五年三月号)
- 「何基澧將軍のこと」 (『日本歴史』 第四七五号、一九八七年)
- 「日中戦争」 「上海事変」 「南満・東蒙条約」 「広田弘毅」 「山東条約」 「張勳復辟運動」 「上海停戦協定」 「広田三原則」 「宇垣・クレイギー会談」 「揚子江封鎖問題」 「張勳」 「張群」 「錦州事件」 「塘沽停戦協定」 (外務省外交史料館日本外交史辞典編纂委員会編『日本外交史辞典』 大蔵省印刷局、一九七九年 同新版、山川出版社、一九九二年)
- 「巻頭言 中国東北地方の旅」 (『軍事史学』 第二四卷第三号、一九八八年)
- 「馬占山についての若干の資料」 (『日本歴史』 第四九六号、一九八九年)
- 「リットン報告」 への一視点」 (『日本歴史』 第五四〇号、一九九三年)
- 「佐藤尚武」 のこと」 (『軍事史学』 第三二卷第一・二合併号、一九九五年)
- 「栗原健生先生の御紹介」 (『外交史料館報』 第一〇号、一九九六年)
- 「日中戦争の『原因』と『責任』」 (『日本国際政治学会ニューズレター』 第八〇号、一九九七年)
- 「史料解題 昭和二二年『関東軍』の対中国政策について」 (『外交史料館報』 第一二号、一九九七年)
- 「石原莞爾と張学良」 (『本郷』 二〇〇一年九月号)
- 「日中戦争前夜北平の一日日本人ジャーナリスト―村上知行の小澤正元宛て書簡」 (『近きに在りて』 第四一号、二〇〇二年)
- 「追悼 小林龍夫先生の思い出」 (『外交史料館報』 第二〇号、二〇〇五年)
- 「日本外交文書」 編纂の思い出」 (『外交史料館報』 第三〇号、二〇一七年)
- 【座談会等】
- 「座談会 太平洋戦争への道(上下)」 (『朝日ジャーナル』 一九六三年一月一日号、一月二日八日号)
- 「座談会 山座外交」 (二又正雄編『山座円次郎伝―明治時代における大陸政策の実行者』 原書房、一九七四年)
- 「座談会 上海、混沌の都市」 (NHKドキュメント昭和取材班編『ドキュメント昭和 世界への登場 上海共同租界―事変前夜』 角川書店、一九八六年)
- 「座談会 王道楽土の夢―『満州国』とは何であったか」 (NHKドキュメント昭和取材班『ドキュメント昭和 世界への登場 皇帝の密約―埋もれた『満州国』 最高機密』 (角川書店、一九八七年)
- 「鼎談 一九四一年日米交渉」 (『外交史料館報』 第四号、一九九一年)
- 「座談会 外交史料館の二十年と将来」 (『外交史料館報』 第五号、一九九二年)
- 「日本外交文書論評 『日本外交文書』 昭和期Ⅱ 第二部第三卷所収『英国産

業連盟使節団来日関係」文書について」(『外交史料館報』第一四号、二〇〇〇年)

「日本外交文書論評 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第三卷所収「天羽情報部長の非公式談話問題」関係文書について」(『外交史料館報』第一五号、二〇〇一年)

「座談会 外交史料館の三十年と将来」(『外交史料館報』第一六号、二〇〇二年)

「座談会 『日本外交の過誤』について」(『外交史料館報』第一七号、二〇〇三年)

【翻訳・翻訳監修】

アーサー・ジッチ、タイムライフブックス編集部編(渡辺育夫訳)『ライフ第二次世界大戦史 真珠湾からミッドウエー』タイムライフブックス、一九七九年

ピーター・ロウ「イギリスとアジアにおける戦争の開幕—一九三七—四一年」(細谷千博編『日英関係史 一九一七—一九四九』東京大学出版会、一九八二年)

〈本記事の作成では、以下の皆様の御協力をいただきました。波多野澄雄、原口邦紘、鈴木祥、電気通信大学、桜美林学園(敬称略)。また、本特集掲載の白井勝美先生の写真は、原口邦紘氏より御提供をいただきました。記して感謝申し上げます〉



白井先生の主要な著書と編纂した史料集



外交文書室時代の臼井勝美先生（左）。
栗原健外務省百年史室長と共に。

外交文書室執務室にて『日本外交文書』の編纂にいそしむ臼井先生。
左は清水秀子事務官。

「臼井勝美先生略年譜・主要業績」中に史料紹介・その他小文として以下の掲載漏れがありましたのでここに追加いたします。

- ・『満州事変』編纂の思い出」（『外交史料館報』第五号、一九九二年）
- ・「細谷先生との思い出」（『外交史料館報』第二五号、二〇一二年）